

田中 允 編

未刊謡曲集

続二十

古典文庫

田中 允編

未刊謡曲集

古典文庫

田 中 允
(芸名 穂高光晴)
能楽重要無形文化財総合指定保持者
幸流小鼓方

古典文庫第六〇五冊

平成九年四月二十日印刷発行

非売品

編 者 田 中 允 マコト

発行者 吉 田 幸 一

印刷者 共立印刷株式会社

製本者 (有)武蔵製本

発行所

114

東京都北区西ヶ原
三ノ三四ノ一二

古 典 文 庫

電話〇三(三九一〇)二七二七
振替口座〇〇一九〇一九一四五九七番

目次

凡例	……………五
各曲解題	……………二五
本文	
さね時	……………(二五) ……五一
愛 寿福王流系異本(愛寿忠信・ 忠信・吉野忠信？　碁忠信？)	……………(二七) ……五七
犬 寺異本	……………(二八) ……六三
いろは異本	……………(二九) ……七二
浦賀辺江崎異本(浦上)	……………(二九) ……七八

浦	上上杉異本(浦下部)	……………	(二九) …… 九二
乙	平異本	……………	(三一) …… 一〇六
木	幡異本	……………	(三一) …… 一二二
狹	衣異本	……………	(三三) …… 一一八
晶子みだれ髪		……………	(三五) …… 一二四
一之宮		……………	(三八) …… 一三四
内船桜		……………	(三九) …… 一四四
玉	碎	……………	(四一) …… 一五三
軍	神	……………	(四二) …… 一六五
手古奈		……………	(四三) …… 一七三
関	戸福王流系異本	……………	(四四) …… 一八一
東	夷異本	……………	(四五) …… 一八八

逢坂物狂復曲本……………(四五)……………一九五

謡曲名寄一覽 上

アの部……………二二一

イの部……………二五二

ウの部……………二八五

エの部……………三〇九

オの部……………三二四

カの部……………三三一

キの部……………三八六

クの部……………四一七

ケの部……………四四六

コの部……………四六六

サの部

.....五〇三

凡例

一、未刊謡曲集続十九までに漏れた曲や異本など「さね時」から「逢坂物狂」までの十八番をこれまで通りの方式で翻刻した。

二、続いてこの続二〇と次の続二一とに互って「謡曲名寄一覧」と題し、謡曲曲名の判明したものを古典仮名遣の五十音順に並べて掲載することにし、これを以て、角渚本番外謡曲二冊、未刊謡曲集正続五二冊所収曲の曲名索引をも兼ね、本巻ではその「上」として「ア」から「サ」までを収めた。

三、その場合、現行曲及び古典文庫所収曲の説明は、必要なものを除いて簡略にした。現行曲に於いては、現行観世・宝生・金春・金剛・喜多の全部にある場合は「五流現行曲」と記し、観世・観世、宝生・宝生、春・金春、剛・金剛、喜多の略号で示した。

四、古典文庫所収曲は、角渚本・番外謡曲角渚本、角渚続本・番外謡曲続角渚本、未刊謡曲集一・三、未続一・二、未刊謡曲集続一・続二

の略号で示した。

五、名寄類は洋数字の略号で記したが、繁をいとい、主として、貞享四年（二六八）版能訓蒙図彙所収（12）のものまでは略さずに示し、それ以後のものは「以下諸名寄所見」と略した。しかし必要と認めたものは必ずしも一律には略さず、委しく記したものもある。また12以後にしかないものは右の枠^{わく}にはこだわらない。

六、名寄の略号数字は次の通り。

1 自家伝抄。永正二年（二五〇五）から永正十一年（二五二四）の間に成立。三省堂『国語国文学研究史大成8』の『謡曲狂言』及び同書店追刊の『文献目録補遺』に翻刻。『芸能史研究』32号所収、西野春雄氏の「自家伝抄考」参照。

2 能本作者註文（仮題）。大永四年（二五四）四月上旬成立。前記の『謡曲狂言』に翻刻。同書所収の『歌謡作者考』はこの異本。

3 東勝寺鼠物語（岡見正雄博士還暦記念刊行会発行『室町ごろ』に影印）所収「謡名寄」。天文六年（二五三七）成立。

4 舞芸六輪。12と同じく『謡曲狂言』に翻刻。天正十二年（一五八四）以前、十六世紀初頭乃至中頃成立の簡単な型附書。

5 いろは作者註文（仮題）。前項と同じく『謡曲狂言』に翻刻。天正六年（一五七八）以後文禄三年（一五九四）以前成立。2を取り入れた名寄。歌謡作者考の祖本。
6 国別謡名寄（仮題）。吉田幸一氏蔵、慶長頃（一五九六～一六二五）筆寫。34はこの異本らしく共通曲多し。国付あり。

7 龍門文庫本謡名寄。川瀬一馬氏著『謡曲名作集』下卷に翻刻。慶長元和の交（一五九六～一六二四）筆寫。

8 龍門文庫本謡之目録。全右。

9 三十輻みそのや所収謡名寄。国書刊行会本『三十輻』に翻刻。寛永正保の交（一六三四～一六四八）成立。国付あり。『宝生』昭和五八年四月号所載西野春雄氏の「天和二年刊謡名集について」参照。10・11と同系。

10 謡名集えうめいしふ 東京都立中央図書館蔵。天和二年（一六八二）三月刊。『宝生』昭和五

八年四月号に西野春雄氏が解説翻刻。題箋に「新謡名集しんようめいしふ 全」とある。9・

板謡名集うたひなよせつくし

11 同系。国付あり。

11 鴻山文庫本金春伝書所収謡名寄。寫本。9・10と同系。国付あり。

12 謡目錄国付。貞享四年（一六八七）四月版『能訓蒙図彙』所収。『能楽資料集成

10』に翻刻。10の大幅増補版。国付あり。

13 謡名寄（仮題）。姫路江崎家蔵元禄三年（一六九〇）正月十一日寫。江崎家蔵の謡本目錄のような本。

14 謳百番目錄。法政能楽研究所蔵。元禄四年（一六九二）九月十六日埜治汝謙寫し。始めの百番は觀世大夫家秘本によつて居り、これは近い曲のみ。以下は稻辺伊右衛門本その他により、「黒外題御本百番之内」の所は家蔵樺表紙本（略称「樺」の第一・二冊に一致する曲が多い。39参照。

15 下掛謡之目錄国付。元禄十年（一六九七）八月版（正徳五年^{一七}_{一五}五月にも再版本あり）

『能之図式』所収。国付あり。12の増補型。18はこれに近い。

16 謡名寄。姫路江崎家蔵寫本。^{（難読）}寛永二年（一六二五）五月十三日江崎^{花押}とある

が、貞享三年（一六八六）版、元禄二年（一六八九）版、元禄十一年（一六九八）版の各百番の

番外謡曲版本の曲名を、組合せまでそのまま取り入れた所もあるから、寛永二年は宝永二年(一七〇五)の誤かと思われる。

17 遠キ諷組。姫路江崎家蔵寫本。正徳元年(一七二二)寫しの識語あり、江崎某の署名花押がある。しかしこの署名花押は判読できず、江崎金治郎当主(故人)の感じでは、宝暦四年(一七五四)正月二四日歿(享年未詳)の江崎家二代目正左衛門是風直行のそれに似ている由である。この名寄の特色はその名の通り他に見えない稀曲が多いことであるが、稀曲揃いの伊達本番外謡曲(未刊謡曲集二五から三一にわたって翻刻)の六百番目と千番目の曲が、配列順も大異なく記されていることである。これに関しては『未刊謡曲集』三一の一九七頁以下に詳説した。

18 正徳反故裏名寄(仮題)。伊藤正義氏蔵。「正徳四年(一七二四)八月十三日書」の奥書があり、反故紙には正徳三年十月のものが一葉あり、正徳四年の奥書は信じてよい。国付あり。15に近い内容。

19 觀世大夫書上。享保六年(一七二二)に徳川幕府の下命に答えてシテ方五流の

家元が自家に伝わった諸事項を幕府に呈出したのがいわゆる「書上」。その中で觀世大夫の書上に謡曲名とその作者名とを附したのが見える。『日本庶民文化史料集成』第三卷能の二一三頁以下及び能勢朝次氏『能樂源流考』一三二五頁以下に翻刻。但し19と20とは能作者名を附したもののみに絞った。委しくは庶民文化史料集成参照。

20 金春八左衛門書上。前項の書上のうちで、金春大夫に代って分家の金春八左衛門が呈出した書上。謡曲名とその作者名が見える。『日本庶民文化史料集成』第三卷能の二二一頁以下及び『能樂源流考』一三二六頁に翻刻。

21 謡總目。享保十三年（一七二八）十二月青地兼山著の鴻山文庫藏『百謡摘解』所収。国付あり。

22 国別謡名寄。鷺流狂言師名女川辰三郎伝書所収。なめかは檜常太郎氏蔵。『能樂資料集成七』所収「万聞書」に翻刻。宝曆十一年（一七六二）頃の寫本らしい。国付あり。

23 謡名寄。安永五年（一七七六）成立の『翁草』所収。

24 Ⅱ 謡目録国付。家蔵。天明元年（一七六一）六月、和義方進筆寫。国付あり。27・38と同系。

25 Ⅱ 和謡分国記。続群書類従所収。成立年次未詳。国付あり。

26 Ⅱ 旧謡いろは名寄。佐佐木信綱著『新謡曲百番』に附載。成立年次未詳。

40 参照。

27 Ⅱ 謡目録国付Ⅱ石田元季氏旧蔵。国付あり。近世後期頃寫本。24・38と同系。

28 Ⅱ 謡名寄。柳沢澄氏旧蔵、鴻山文庫現蔵の『舞樂秘曲伝書』所収。成立年次未詳。

29 Ⅱ 謳番組。京観世五軒家の一つ浅野家旧蔵、鴻山文庫現蔵。福王流番外謡曲の目録。近世中期頃寫。次の30と同類。40参照。

30 Ⅱ 謡名寄国附。姫路江崎家蔵。29と同類。近世中期頃寫。国付あり。40参照。

31 Ⅱ 八百番名寄。京観世五軒家の一つ井上家蔵。近世中期頃寫。29・30に近

似。

32 Ⅱ 無題名寄(仮題)。前項と同じ福王流系の名寄。井上家蔵。近世後期頃寫。

33 Ⅱ 謡目録諸国類聚。尊經閣蔵。近世後期頃寫。国付あり。

34 Ⅱ 謡名集。法政能楽研究所蔵。国付あり。6の異本で、国付も含めて殆どが6と一致する。5・7とも一致する曲が多く、この祖本は十七世紀初頭を下らないかと思われる。

35 Ⅱ 伊呂波寄曲名目録。尊經閣蔵近世中期頃寫本。比較的遠い曲を集める。

36 Ⅱ 謡名寄。尊經閣蔵。近世中期頃寫。5・9・10・11などと共通曲多く、比較的古い名寄らしい。国付あり。

37 Ⅱ 謡名寄。彰考館蔵。近世後期頃寫。「うめ」があり、これが明和二年(二七六)五観世元章新作の「梅」だとすればそれ以後の成立となる。

38 Ⅱ 謡目録。彰考館蔵。近世後期頃寫。24・27と同系。国付あり。

39 Ⅱ 吉田名寄(仮題)。吉田幸一氏蔵「番外曲外題集」に附載。近世後期頃寫。14に見える曲比較的多し。

40 Ⅱ 謡名国付以呂波寄。尊経閣蔵。近世後期寫。張紙朱書の後人加筆の所は29・30などの福王流系に一致するもの多く、26に一致するものも比較的多い。国付あり。

41 Ⅱ 謡国々名寄。島原松平文庫蔵。元禄頃（二六八―一七〇四）寫。『松蔭短期大学研究紀要』五号（昭和三九年三月刊）に伊藤正義氏が紹介翻刻。国付あり。

42 Ⅱ 謡銘寄。法政能楽研究所蔵。近世後期頃寫。黒川眞頼、同眞道旧蔵本。

43 Ⅱ 謡千番外題。家蔵。近世中期頃寫。渡辺與市郎義明の署名あり。この中の「兼好塚」は元禄十三年（一七〇〇）頃の作だから、それ以後の成立。吉田本番外曲（略号吉田）に見える曲が多いから、福王流系と思われ、別名の註記が多いのも好資料。

44 Ⅱ 大和田名寄。大和田建樹著明治三三年（一九〇〇）八月四日刊の『謡と能』所収の名寄。

45 Ⅱ 松尾名寄。『日本及日本人』明治四四年（一九二二）九月十五日号所収の松尾樂山編の謡名寄。誤読誤記が比較的多い。

七、伝本の略号(五十音順)は次の通り。但し現行曲及び古典文庫関係の略号は三・

四に既述。

浅Ⅱ家蔵浅葱表紙近世前期頃^{でつちようそう}粘葉装古寫本。上懸節付で、五番綴三九冊、二

番綴一冊。貞享二年版二百番外百番本(貞三)、元禄二年版二百番外百番本(元

二)等の本文にはほぼ一致するから、これら版本群と同系と推定。万治三年(

六六)頃成立と推定される「不断桜」が組み入れられて居り、「東心坊」の所

に朱で「元禄十年^{丁丑}(一六九七)正月十七日之夜直方勤之文句悪しき所糺之」と

あるから、一六六〇、一六九七の間の成立。

朝12Ⅱ大阪朝日新聞社旧蔵、大阪府立図書館現蔵の番外謡曲集。1は第一

種、2は第二種。未二の十四頁に紹介。

井1234Ⅱ京観世五軒家の一つ井上家蔵。第一種から第四種まであり、未

一の九頁に紹介。『国語国文』昭和十八年三月号に解説。

飯Ⅱ飯田豊氏蔵喜多流節付本。未二の十四頁に紹介。『国語と国文学』昭和四

年一月号に飯田氏自ら紹介。